

CONTENTS

文化の交差点 青木 保・文化庁長官対談 第14回 ゲスト 宮田亮平さん●東京藝術大学長
ときめきこそアート 4
長官コラム 青木保のカフェ・アオキ 8

特集 文化財の総合的把握

文化庁提言
「文化財の総合的把握」について 有松育子・12
寄稿
歴史文化基本構想への期待 石森秀三・14
論文
市町村による文化財の総合的な把握の取組 西山徳明・16
解説
「歴史文化基本構想」の策定手続きと留意点 文化財部伝統文化課・20
「歴史文化基本構想」の策定支援策 文化財部伝統文化課・22

連載

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 78 たつの市立龍野歴史文化資料館 (兵庫県) 24	こどもの文化体験 18 アートの楽しさをちよこつとずつ (新潟県魚沼市) 31
芸術文化の風 42 カオスの会 (小倉信宏) 25	日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編 48 石田勝雄 (琵琶製作修理) 32
著作権Q&A 「著作権なるほど質問箱」から 42 広報と著作権② 26	国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 66 万年自鳴鐘にみる江戸の技術 33
暮らしの中の言葉 6 語種から見た現代の書き言葉 27	祭り歳時記 伝承を支える人々 30 生子神社の泣き相撲 (栃木県鹿沼市) 34
伝達地区を見守る人々 伝達歳時記 54 港町宿根木の二大祭り (新潟県佐渡市) 28	文化交流使の活動報告 46 平成20年度文化庁文化交流使指名書交付式 35
広げよう「文化力」の輪! 30 ながさきの伝統芸能を守り伝えていくために 30	新進芸術家在外研修体験談 6 歴史の中で (日本画家・谷中武彦) 36

今月の表紙
上から順に
法観寺八坂塔と歴史的町並
重要文化的景観 遊子水荷浦の段畑
(提供: 宇和島市教育委員会)
亀山八幡宮秋祭りの太鼓台の奉納
(香川県小豆郡小豆島町)

文化庁ニュース 37
イベント案内 42
新国立劇場スポットライト 45
10月の国立劇場 46
芸術文化振興基金ニュース 47
題字デザイン 桑山弥三郎



文化
の
交差点

青木 保・文化庁長官対談

第14回●ゲスト 宮田亮平さん（東京藝術大学長）

ときめきこそアート 芸術教育の可能性

青木 本日は大変お忙しい中をご出席いただきありがとうございます。
先生は鍛金を専門とされている伝統工芸の現代の継承者ですね。もともと、どういふところからこの専門に関心をお

けには、芸術教育が一番いいんです。人間そのものの生き方、そしてそれをつかさどる大事な感性がなくなっていくと、本来の力さえもなくなっていくんじゃないかという気がします。

青木 感受性とか、感性を磨くような場をどういふ風に作ってゆか。これは絶対に欠かせないことと思われるのですが。

宮田 感性の話をするのはとてもすてきで、おもしろいです。「感性」という言葉じゃなくて、例えば「センス」「いいセンスしてるね」って言われたときに、むっとする人は一人もいないと思うんです。（来場者の女性に）今たまたま目が合っちゃったのでおたずねしますが、「いいセンスしてますね。黒と白との関係がとていいよ」。嫌な気分しますか？（「しないます」との声）

それは今日、自分の中で意識してきたでしょう。今日は白と黒でいい。いや、照れなくていい。照れるということ、感性のつぼにびったりはまっています。最近、「美しい」という言葉を平気で言える人がいなくなりました。こ

もちになったんですか。

宮田 最初は、花形の自動車のデザイナーになりました。自動車デザイナーは、ネクタイを締めて部屋でデザインするだけじゃなくて、現場へも行って、現場の技術者と一緒に試行錯誤して作り出していく。そうしてでき上がった作品は、日本が世界に誇ることができるともだと思っていたんです。東京藝術大学にやるとこさっとこ入ったんで、せっかく勉強するならば、その両方を勉強できるところがいいなと思いついて、必然的に鍛金を選んだんです。

話は飛びますが、この間、お茶の水女子大学の附属幼稚園へ行ったんです。とても感動しましたね。幼稚園というのは、あの場所すべてが芸術の世界。絵があり、歌があり、演劇があり、舞踊があり、すべてが芸術なんですよ。

ところが、立って見学していたときには、わからないんですね。彼らも知らんぷりして遊んでる。小さな椅子（後で聞いたのですが、創建当時からある数十年の歴史ある木の椅子）があって、そこに座らせてもらって、途端に僕の目線が変

わっちゃったんです。と同時に、子どもたちがいきなり対話してくれた。さらに肩車をするわけはするわ。

そこには差別はなくて、区別がきつくりできています。年少、年中、年長という関係もできています。この中で、だれがプロデューサーで、だれが観客という関係が見事にでき上がっていた。なのに、小中高と成長するにしたがって、どうして途中から嫌になっちゃうのかな、と思っ

たんです。それは何かというと、大人が差別しだしたんだらうな。つまり、「上手い下手」「できるできない」という言葉で、本来もっているすばらしい感性を摘んじゃっているんじゃないだろうか。差別することは摘むことであるというのを強く感じた一場面でした。

青木 芸術や文化に対する関心が、一般的に見て今の学校教育の中ではきちんと扱われていない気がします。どうでしょうか。

宮田 今日、それを第一に言いたかったですね。何でこんなに生きていることがうれしいのかとか、生きていることが

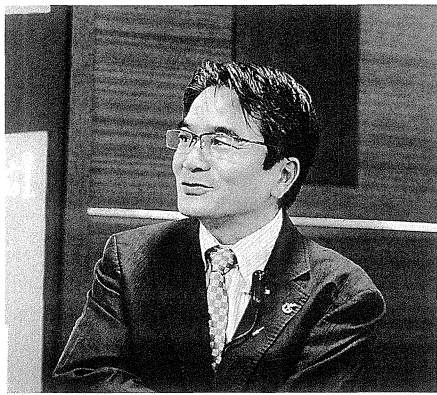
青木 特に日本の総合大学の中に、芸術

た。入水したときの太宰の話とか、その前の太宰の何篇かはしゃべりましたよ。太宰そのものの文学性もさることながら、日本の何かをしつかりと答えなければならなかったのかなと思います。青木 向こうは、日本人だから日本文化について当然よく知っていると思っすから。美術だけじゃなくて、音楽や文学なども。

宮田 そういう意味では、私ども東京藝術大学がやらなきゃならない仕事はあると思うんです。ただ作家養成をする、いい作品を残すだけではなくて、プラス、日本の国力に大きく貢献していくことではないかと思うんです。

東京藝大だけでは規模的にも限界があるので、国公立五芸大の京都、愛知、金沢、沖縄、東京藝大がそれぞれの特性を生かし、大きく合体して連合をつくって、芸術表現学会を設立して、それが力となって、いろいろなところへ波及していったらいいかなと思っす。

みやた・りょうへい 新潟県出身。昭和20年生まれ。鍛金作家。東京藝術大学大学院美術研究科(工芸)修士課程修了。平成2年文部省在外研究員としてドイツに渡り、ハンブルグのミュゼウム・フィアー・クンスト・ゲベルにて研修。東京藝術大学美術学部長を経て、平成16年4月から理事および副学長、平成17年12月から現職。日展会員・審査員、現代工芸美術家協会理事・審査員、NPO工芸文化研究所理事なども務める。イルカをモチーフとした「シュプリングン」シリーズなどの作品で、日本現代工芸美術展大賞、文部大臣賞、内閣総理大臣賞、読売新聞社賞、日展特選など数々の賞を受賞。また、それらの作品は日本のみならず、ドイツ・中国・イスラエル・韓国でも展覧されている。



文化・芸術の教養の大切さ

青木 教育体系の中での文化や芸術の位置づけですね。芸術だけでなく、日本文化についてあまりにも知識がないまま育っていつてしまう。これは何人もの方から聞くのですが、海外に滞在して、向こうの方とつき合って、最初に聞かれるのは日本の文化のことなのですが、ほとんど答えられないと言っす。現代のことはある程度知っていますが、江戸時代とか、それ以前は、断片的知識しかもっていないんですね。だから、教育過程のどこかできちんと現物を見せるようなことを取り入れて、日本文化に関する知識をもってもらうことが必要だと。

宮田 いいものを見せて。いいものを見ると身体全体で記憶してるんです。

青木 それを組み込まないと、いくら仕事ができるといっても、人間としてのバランスを欠いて、国際的にも通用しないのではないのでしょうか。

宮田 おっしゃるとおりです。医学なんか特にそう思いますよね。

この間、ちょっとした気の弛みからつまらないけがをしたんです。病院でお医者さんが縫っているのを僕は見たがるわけです。お医者さんは「見せない」と言うけど、「せつかくだし、おもしろいから見せてよ」と。なるほど、こういうふう

文化あるいは芸術について、実技の現場まで知るような形で教わる機会が必要なのではないかとかねて思っす。したが、いかがでしょうか。

宮田 私が在外研究員として行ったドイツのハンブルグでそれをとても強く感じました。それまであまり日本が好きじゃなくて、日本は大したことないぐらいの気持ちで行って、現代芸術論みたいな話をしてもあんまり反応が返ってこない。あるときスタンスを変えて江戸時代の甲冑の話とかをしたところ、いきなりスタンディングオベーションでした。

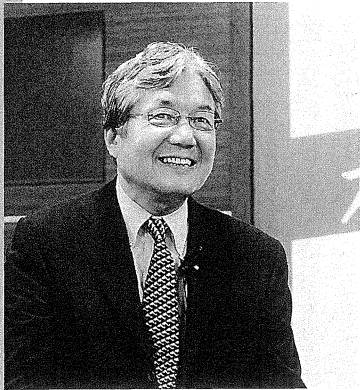
そして、夜はキュレーターのお宅に呼ばれるわけです。金曜の夜に呼ばれると一生の友達と聞いていましたからうれしかったですね。木のおわんにかゆを出してくるんです。まさかそんなものが出るとは思わない。永平寺の朝がゆみたいなのを出してくれて、いろんなことを聞くわけです。それでガーンとしちゃったんです。

その中で、「宮田は太宰治をどんなふうに思いますか」という話をされて、それに答えられなかった自分が悔しかった。文化あるのか……。抜糸するときの姿をまた見てみたい。使用前使用後じゃないけれども、そこに技があると思っす。技がなければ、すてきな情景には戻らないじゃないですか。使用後のほうがすてきでありたいと思っすから、けがをしたままマイナスじゃなくて、それをプラスへ、「ちょっときれいいじゃない」と言えるように。

青木 確かに手術なんて、本当にアトですよ。

宮田 アトですよ。

人間だれでも才能があるんですが、その才能をどうやって生かすかというときに、それを探すことも教育なんです。そのチャンスをつかむには、実は芸術教育が一番いいんです。人の癖とか、特徴をつかむという事は、デッサンをする仕事と同じなんです。きれいなものをどうやって見つけようか。どういう質感を出そうかというのを勉強するわけです。それは言ってみれば、その人の五感をつかむということと似ているんです。絵を描くのは絵描きになるために絵を描くという論法にならなくていいんです。もっ



を学べるコースがほとんどない。医学部へ行く学生も、工学部へ行く学生も、法律をやる人も、みんな大学へ入ったら、一定期間芸術の実技、ピアノを弾かせたり、絵を描かせたり、演劇をやらせたりということをして、どこかに組み込む必要があると思っす。

宮田 おっしゃるとおりです。医学なんか特にそう思いますよね。

この間、ちょっとした気の弛みからつまらないけがをしたんです。病院でお医者さんが縫っているのを僕は見たがるわけです。お医者さんは「見せない」と言うけど、「せつかくだし、おもしろいから見せてよ」と。なるほど、こういうふう

と色々な幅をつかむことができる手段な
 んです。

社会に身近な芸術に

青木 長官になってから時々藝大にお邪魔するんですが、それまでほとんど行つたことがなかったんです。実は敷居が高いというか、気楽に外部の者が行けないような雰囲気があったでしょう。先生が学長になって、垣根が低くなってきたと思います。藝大の社会との関係、あるいは芸術の社会との結びつきについてどのように思っていますか。

宮田 今まで藝大というのは、藝大に入ってきた学生を教えていればよかったんです。プラスアルファで、ちょっと公開講座をやっている程度でよかった。でも、大学の使命はそんなものじゃない。藝大の仕事もそんなものじゃない。もっと社会への還元。もちろん学生を教えることに対しては、手を休めることはありません。プラス、もつとやらなければいけないことがある。私が学長になってから、「一世に」ときめき」を」というアクションプランを掲げてやらせてもらって

いるんです。社会連携センターをつくって、美術学部では「タウンアートミュージアム」、音楽学部では、教授が直接小学校に行つて教える。藝大の学生を教えるのと同じような気持ちで教えていく。
青木 一般の社会から見ると、上野の森の藝大が、だんだん身近になってくることはありがたい話ですね。

宮田 おいでいただいたほとんどの方はファンになってくれる。こんなに芸術っておもしろいものなのか。芸術ってこんなに楽しいものなんだと。

よく言うんですが、私はリヤカーに芸術をいっぱい積んで多くの人に伝え歩くと、芸術の行商人ですよ。学長の仕事はそういう仕事だということにして、皆さんと共有することを大事にしたいと思つて日々を過ごすうちに、二年半があつという間に過ぎました。

青木 社会とつなぐ催しもされていますね。実際、制作過程の一部だけでも、作曲しているとか、あるいは指揮をしているとか、そういう現物を実際見ると身近になりますね。そういう面で、ほかの一般の大学にも出前をしていただくとかね。

宮田 あ、出前はいいですね。
青木 藝大は藝大ですばらしいんですけど、一般の総合大学にほとんど芸術を教えるチャンスがないので、いびつな秀才ばかりが出てくる面もある。官僚だけでなく、政治家、企業家とか、いろんな分野で活躍されている人で、もちろんすばらしい人は多いんですが、一般的に言うと文化芸術への理解を欠いている方もいらっしゃる。

知人の息子さんがアメリカの有名な工科大学に留学されたんです。非常に難しい理科系の専門のコースにお入りになつたんですけど、お母さんのところに電話がかかってくる。芸術、それも実技が必修だつた。

その大学の方針としては、芸術は創造性に大きく寄与するので、これからの科学・技術はクリエイティブパワーだから、それを養うためには、どんな理科系の専門をやっている人でも芸術について知る必要がある。しかも、理論のほうでなくて実技が必要ということなんです。

宮田 私は別に芸術の仕事をしているから芸術の味方をしていっているわけではなく

て、今のお話を聞いているんな意味でそういうことは感じますね。

青木 官庁や企業の試験でも、筆記試験や面接がよいだけでは合格に十分ではない。何かアートに関することができなくてはダメとか（笑）。

宮田 絵じゃなくて、四角い粘土を一キロ渡す。一〇分でいいかな、これで造形しろと。

審査員も審査されるわけです。例えば、一〇分、一切それをさわらないまま置いていく。これもすごいアート力だと思ふ。普通、どうしようかと思つて、何とかしようとするじゃない。じゃなくて、アンタツチャブル。最後に指紋を上にちゃんと載せて帰る。「にくいな」とかね。あるいは、「グッと一握り」しただけで帰るとかね。「徹底してつくり込んで」帰るとかね。ペーパーではなかなか見えない素が、人間の決断力が見えるんだな。

藝大に期待される役割

青木 さて、せっかくですから日本全体の芸術の将来に対する藝大の寄与と、先



青木 保の

カフェ・アオキ

日本文化政策学会に期待する

「日本文化政策学会」は昨二〇〇七年六月に創設された。その創立記念大会が静岡文化芸術大学で行われ、創立大会記念講演に招かれた。記念講演論文の収録された学会誌「文化政策研究」第一号がこのほど発刊された。実はこの学会の設立は、私自身、長年望んでいたことであつた。一九九九年から二〇〇六年まで在籍した政策研究大学院大学では文化政策研究コースと文化政策研究プロジェクトを担当し、院生諸君と内外での研究調査も行った。ここで指導した院生は今年三月、おそらく日本初めての文化政策博士号を授けられた。

日本の大学は一般的に政策研究が弱い。逆に政策関連の研究や教育を避けてきた傾向もある。アメリカの大学にいたとき敬愛する文化人類学の教授たちがその専門領域に関して紛争などが起こったとき政府の要請に応じてワシントンへ出かけ政策上のアドバイスをしているのを見て、専門知識を国の政策に役立てることの重要性、またそれが一種公共的な責務でもあることを知り、目を開かれた気がした。学問が政治に利用される危険はあるといつても、正確な専門知識を欠いた政治や政策はもつと危険である。いま日本も含め世界には多種多様な難問があり、専門知識と政策と政治力とがバランスよく融合した形で解決を待っている。公共政策において従来文化はあまり政策課題として重要視されてこなかった面があるが、現実には「文化」の問題は「文化の衝突」「民族問題」「多文化・多言語社会」などから「地域の再生と文化振興」「文化芸術創造都市」「子供と文化芸術活動」「社会の安定作用としての文化芸術」「文化財・遺跡の保護・修復」また「文化外交・対外文化政策」などの多様な問題へ広がり、いずれも政策的対応を迫られる課題となっている。

「日本文化政策学会」が生産的でよい意味での学・政・官・財の連携を図り、その学際的な多様な研究を基礎にして、日本と世界の相互理解のある豊かな社会実現のために役立つ、有効性と実効性のある政策提言を行える学会に育ち発展することを、改めて心から望みたい。

生が非常に熱心なアジアの芸術大学との連携について、先生の抱負をお聞かせください。

宮田 藝大がやらなきゃならないことは山ほどあるんですけども、今、世界中からの留学生が自国へ帰られて、すばらしいお仕事をなさっている。お国の仕事もなさっているわけです。「ホームカミングデー」という感じで、ネットワークをつくっていくと、もっとおもしろい関係ができていくのではないかと。今までは勉強して帰国して、その後の連携が全然できていなかったんです。その部分をこれから私たちはやらなきゃいけない。

それと同時に、日本の中のもっと深い伝統技術などを世界にしっかりと認知させる仕事も必要だと思います。一例ですが、先日、日本画研究室に呼ばれました。そこでは先生も学生も一緒になつて、『源氏物語千年紀』にちなみ当時の絵の具とまったく同じものを使って、ひび割れもそのとおりに日本画を模写してやるわけです。壊れた板とか、板の木目まですべて再現しちゃうわけです。そうすると、世界中に送っても大丈夫なわけ

です。こんなすごい絵なんですよということとを、印刷じゃない、本物で見せる。本物でありながら偽物なんだけど、そういう仕事も藝大の仕事だと思っています。

アジアの芸術大学は、今まで日本もそうだったんですが、西洋のものを取り入れることによって自国を高めようとしていました。しかし、もうそうではなく、アジアの中で連合を組むことによって、逆にアジアから世界に発信していくためのアジア連合をつくっていくかなければならないと考えています。



以前、岡倉天心が「アジアは一つ」という言葉を使ったのは、西洋の文化がきて、日本、アジアの文化が滅びそうになった。そのときに、アジアはすてきなんですよということを言いたかったんですが、逆に西洋との対比をしたときに、似て非なるの違いをつくることによって、アジアのよさを見せることが必要だと思っています。

今後は、アジアの中でも違うものがある中の中にきっちりありますから、その中で共同して大きなサークルをつくり、模索しながら前に進んでいく。そうすれば新しいものをつくれるのかなという気がしています。

青木 先生が昨年主催されたアジア芸術大学のネットワーキング会議は大変重要だと思えました。宮田先生、なかなかすてきで議論好きな学長で、藝大も、日本の芸術の将来も大丈夫かな(笑)。

先生のますますのご活躍を、日本の芸術、日本の教育のためにも心から祈ります。ありがとうございます。

宮田 こちらこそありがとうございます。

た。

◆長官対談
文化の交差点 書本係文化庁長官対談
桃井かおり 女優・映画監督
〔長官〕ラム 青木保のカフェ・アオキ

◆特集
世論調査に見る日本人の国語力と言葉遣い
文化庁提言
国語施策と「国語に関する世論調査」
〔座談会〕

日本人の国語力と言葉遣い
……林 史典 出久根達郎 井田由美 句坂克久
〔概要〕
平成一九年度「国語に関する世論調査」の結果

◆文化庁ニュース◆
全国民俗芸能大会
文化財保護強調週間
文化財の新指定 芸術工芸関係③
平成二〇年春の叙勲・褒章受章者の決定

編集後記

今月号の特集は、「文化財の総合的把握」としました。
「文化財を総合的に把握する」などと書つてもなかなかイメージがわきませんが、一つひとつの文化財をきちんと保存・活用することに加えて、関連する文化財を一定のテーマ(ストーリー)に基づき「線」でつなぐといったことや、周辺環境まで含めて「面」としてとらえるといった手法により、一層効果的に保護していく取組と書えるでしょう。
文化財は地域の人々とともに存在しま

連載

〔いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート〕
岐阜市歴史博物館
〔芸術文化の風〕
路地裏の映画保存
〔著作権Q&A 著作権なるほど疑問箱から〕
市民活動と著作権①
〔暮らしの中の言葉〕
白書の文の特徴を調べる
〔伝建地区を旨とする人々 伝建時記〕
〔伝統と文化が息づく伯馬の小京都出石(兵庫県豊岡市) 世界遺産遺産地〕
世界遺産の条件 重要な普遍的価値とは
〔広げよう「文化力」の輪〕
霞が関から文化力プロジェクト開催中
〔子どもの文化体験〕
国民文化祭いよいよ茨城で開催
〔日本の伝統業と技を守る人々〕
江洲榮貴・表貝用手漉和紙(補修紙)製作
〔国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法〕
伎楽面
〔祭り歳時記 伝承を伝える人々〕
養父のネットイ相撲
〔文化芸術祭の活動報告〕
桂 かい枝・齋藤 翠
〔新進芸術祭在外研修体験談〕
野村萬斎・狂言師/世田谷パブリックシアター芸術監督

す。しかし、過疎化や、逆に都市化が進んだ地域では、コミュニティそのものが失われつつあり、それに伴って貴重な文化財も消失してしまおそれがあります。文化財は地域のアイデンティティの核であり、それを保護する取組を通じて、地域の再生が図られることが期待されます。
「歴史文化基本構想」の主旨は市町村です。文化財や文化・歴史を核として、まちづくりという観点から、それぞれの市町村で知恵を絞っていただきたいと思えます。
(茶懸)

文化庁月報 9月号 (通巻 480)

平成20年9月25日印刷・発行
編集—文化庁
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
発行—株式会社 きょうせい
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 編集 03 (3571) 2126
販売 03 (5349) 6666
フリーコール 0120-953-431
URL: http://www.gyosei.co.jp
印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円
年間購読料6,480円
本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
(株)ぎょうせい営業部営業課(広告)
電話03(5349)6657(ダイヤルイン)
2008 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

美術館・博物館チケットプレゼント
今月号の農展会等へのチケットプレゼントは、
A 国立新美術館
「巨匠ピカソ」 2組(ペア)
B 国立国際美術館
「アジアとヨーロッパの肖像」 2組(ペア)
C 奈良文化財研究所飛鳥資料館
「まぼろしの唐代精華」 2組(ペア)
D 東京国立博物館
「大琳派展」 2組(ペア)
です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、9月24日(水)までにご投函ください(当日消印有効)。
*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

<お詫びと訂正>
本誌平成20年8月号記事中に以下の誤りがございましたので訂正いたします。
●p25「芸術文化の風」
嘉藤笑子氏の肩書き
(誤) ANN ディレクター
(正) AAN ディレクター
ご本人をはじめ、読者の皆様、関係各位にはたいへんご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。